

第5回 人口減少対策・人材確保に向けた産学官連携懇話会（令和7年2月3日～2月12日）

番号	委員名	項目	ご意見	ご意見に対する対応
1	小安委員 (株式会社 Will Lab)	3 対策推進の方向性 I 取り組むべき方向性 (1) ジェンダーギャップの解消と働きやすい職場環境づくり	男性育休取得について全国水準より高いものの、一層の推進が必要であるという記述があってもよいと思う。	ご意見のとおり、本県の男性の育児休業取得率は全国平均を上回っていますが、女性の取得率と比較すると依然として低い状況であることから、【課題】として「男性の育児休業の取得促進」を記載しているところです。引き続き、男性の育児休業取得の一層の推進に向けて取り組んでまいりたいと考えています。
2	小安委員 (株式会社 Will Lab)	3 対策推進の方向性 I 取り組むべき方向性 (3) 県内企業と若者のマッチング促進	三重県の魅力について、「住みやすさ、働きやすさ」の他にさらなる言語化が必要である。	本県の魅力については、「住みやすさ、働きやすさ」のほか、可処分所得が多いことや、女性の健康寿命が長いこと、自然環境が豊かであること、いろいろな仕事をえらぶことができることなどが考えられるところです。引き続き、三重県の魅力の言語化について、検討してまいりたいと考えています。
3	小安委員 (株式会社 Will Lab)	3 対策推進の方向性 I 取り組むべき方向性 (3) 県内企業と若者のマッチング促進	若者への「県内で暮らす・働く」魅力発信について、年休取得、女性比率等に加えて、魅力として「働きがい」の概念が入るとなおよいと思う。	ご意見をふまえ、現在【取組の方向性】に記載されている各企業が行う情報発信・PRに「仕事のやりがい」を追記します。
4	村井委員 (三重短期大学)	3 対策推進の方向性 I 取り組むべき方向性 (5) 移住・経験者採用の促進と多様な人材の就労支援	高等教育機関では、在籍している障がいのある学生に対し、就職に向けての支援を行っている。高等教育機関としても、障がい者雇用に関する情報を得ながら、より多くの就職支援に取り組んでいきたい。	ご意見をふまえ、「障がいのある学生の就職支援」に係る取組内容を【取組の方向性】に記載します。
5	小安委員 (株式会社 Will Lab)	4 推進体制・進行管理 (2) 進行管理	モニタリング指標にジェンダーギャップ解消の結果指標として「男女賃金格差」を入れてもよいと思う。	来年度（令和7年度）に策定する予定のジェンダーギャップ解消に向けた戦略を策定する中で、「男女賃金格差」についても、その取扱いについて十分に議論してまいりたいと考えています。
6	藤波委員 (株式会社日本総合研究所)	その他	取り組むべき方向として、第1にジェンダーギャップ解消があり、2番目に労働条件や生産性向上が取り上げられていることはよいと思う。この順番が優先順位という意図はないかもしれないが、読み手は重要性の重さを感じるはずである。移住促進や外国人受入れよりも、まずは、いま県内に暮らす人たちの豊かさや幸福度を高める取組に注力すると言っているようで、心強いのではないかと思う。	